

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271800581		
法人名	医療法人社団 明生会		
事業所名	グループホーム咲顔(Bユニット)		
所在地	千葉県東金市東金1371-1		
自己評価作成日	令和7年2月2日	評価結果市町村受理日	令和7年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和7年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あかるく やさしく あたたかい介護」を施設理念とし、ご入居の皆様それぞれの思いを形にしながら、豊かな日々を送って頂くことを目指しています。生活の場として、掃除・炊事・洗濯などの家事に関わったり、音楽・料理・読書などの趣味活動を通し「役割を担う」「充実した生活を送る」といった望む暮らしの実現に向け職員がお手伝いをしています。特に好評なのは「食」が関係するイベントです。新年のおもてなし料理、季節毎のイベント食、お誕生日の手作りケーキ、一緒に作るおやつなどなど、健康を維持し、心が満たされるような「食」が提供できるよう工夫し楽しんで頂いています。職員は研修計画に基き必要な研修、勉強会に参加し知識・技術の向上に努めています。働きながら資格取得やキャリアアップを目指す職員に対し、勤務調整や費用負担など法人のサポートも充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あかるく やさしく あたたかい介護」の理念をユニット内に掲示し、常に目に触れることで、職員が意識できるようにしている。また、会議等でも理念の共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板のやり取りや自治会の清掃行事に参加している。コロナ等で中止となっていたお祭りが10年ぶりに開催され、祭りの準備や盛り上げに参加し、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民から、介護に関する電話相談もあり、介護保険制度についての説明や、助言を行っている。相談内容によっては居宅ケアマネ等に繋げ、適切な支援が受けられるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前にメンバー全員に議事をお渡しし、出席できない方からの意見等は事前に頂戴し、会議の場で活かすようにしている。近隣の同業者にも参加頂き、双方のサービス向上にも繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に毎月、空き状況の報告をしているほか、運営推進会議を通してホームの取り組みや様子をみて頂き、意見を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束等の勉強会を実施し、会議の場で身体拘束がないか、チーム全員で話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、定期的に勉強会を実施。ニュース等で取り上げられた介護施設での虐待についてもチームで周知し、話し合うようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者が1名おられる為、日頃から後見人と連絡調整等の対応をしている。職員には制度の理解が深められるよう資料を配布している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、説明を行い、納得頂いた上で契約を行っている。また変更のあった際は随時重要事項説明を行い、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、何でも話しやすい関係づくりに努めている。また、運営推進会議の際に参加できないご家族には意見を頂戴している為、頂いた意見等を職員間で共有して改善・反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また個別面談の際には管理者のほか、部長、施設長に直接伝える機会もあり、必要物品の購入・設備の改修・業務の効率化など職員の意見の反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課の自己評価で個々に努力・貢献した事等をアピールする機会が設けられており、評価は給与や昇進に反映される。各等級についての行動基準・評価基準が具体的に示されているため、向上心ややりがいに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の階層別研修では、外部講師も招き、それぞれの経験・力量・現場における役割に合わせ、求められるスキルを身につけられる内容の講義が設定されている。その他、希望する研修受講、学会参加、資格取得について法人から費用や勤務調整のサポートを受けられようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設の管理者とは情報共有を行い、切磋琢磨している。また、同市内の他施設の管理者とは電話で相談事や情報提供頂き、サービスの向上に努めている。その他、外部研修等で同業者との交流する機会を作っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅時のケアマネからの情報を頂くとともに面接等で本人・家族の意向や要望を確認している。また不安を軽減できるよう本人の生活歴や趣味、嗜好等も事前に確認し、入所後の生活に対して、お互いに不安のないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意向だけではなく、家族の意向もしっかり受け止め、不安を取り除く事ができるよう努めている。また、できることやできそうなことを伝え、家族の協力を頂きながら本人の生活をサポートし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報収集の他、前任のケアマネジャーやMSWなどと連携し、適切な支援の提供に努めている。医療ニーズに対しては、主治医、医療機関との連携を密にし生活上の注意点などを把握し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりの有する力を引き出しながら、得意分野を活かせるよう支援に努めている。料理や洗濯等、役割として担って頂き、職員も入居者に支えられる関係となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える上でご家族でなければできない事がたくさんある為、ご家族と連絡を密にし、必要物品の購入を依頼する等、本人と家族が顔を合わせる機会を増やし、本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話をお持ちの入居者様もおられ、ご家族はもちろん、ご友人の面会や電話などの本人が大切にしてきた関係の継続に努めている。また、お手紙や年賀状に対し、希望があればお返事できるようサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が交流しやすいよう座席の配慮をしたり、入居者同士が協力し合えるような家事活動や共に楽しめるレクリエーションの場を提供している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も偶然お会いした時には、どちらからともなく声を掛け、思い出話や近況を確認するなど利用中に築いた関係が続いている。また直接お電話を頂き、相談を受けることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時のアセスメント際はもちろん、生活の中の様々な場面で本人の希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方については仕草や表情、家族からの情報等から意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの聞き取りの他、主治医や前任のケアマネジャー、入居前に利用していた事業所の担当者などから広く情報を集め、これまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとり、本人のペースで過ごして頂けるよう支援を行い、日々の申し送りで健康状態や精神状態の情報共有を図っている。入居者ひとりひとりの「できること」「できそうなこと」を把握し、能力を活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向、要望の聞き取り、職員の気付きや主治医からの助言などを踏まえ、月1回開催している「ケース会議」において生活課題や本人の意向・希望などについて分析・検討の上、現状に即した介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録のほか申し送りノートを活用し情報共有を図っている。月1回のケース会議で、気づきや生活課題について話し合い、新たなニーズなどを検討しプランの作成・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の代行から、外出の送迎、受診の付き添い、入院中の食事介助、医師からのインフォームド・コンセントの立ち合いに至るまで、本人及び家族の多様なニーズにできるだけ応えられるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの店への買い物、郵便局で切手の購入や郵便物の投函、市役所で必要な手続きを行う、長年協力頂いている移動美容室の利用、近隣公園でのお花見等々、それぞれのニーズに合わせ地域住民の一人としての生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医を継続し、家族が受診対応できない場合の代行、福祉車両が必要な方の送迎なども行っている。本人の状態の変化に合わせ、本人・家族の負担軽減、要望に応えるため、在宅診療へ移行することもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じてかかりつけ医へ電話で相談し、指示を仰いでいる。在宅診療を利用している入居者については、24時間365日相談可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	速やかに介護サマリー等の必要な情報提供を行うと共に、家族を交え医師、MSW、看護師等から入院中の状態説明を受け、早期退院に向けてこまめに面会に出向き、食事介助など施設生活への復帰に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、重度化した場合の対応に係る指針を示し、説明を行うとともに、家族に意向確認をしているが、本人の状態変化やその時々で変わる家族の心境に寄り添いながら、都度話し合う機会を設けている。終末期は、家族とともに本人の心に寄り添えるようチームでサポートしながら、ご家族が後悔のないようできる限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時研修で、応急手当・心肺蘇生・緊急時の対応等の講義を受講する他、施設内研修で学ぶ機会を設けている。また、入居者の疾病に合わせ予測される急変症状や転倒事故があった場合の対応など都度ユニット職員で情報共有し、不安があれば、情報を追加しながら、『いざ』に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的の実施している。運営推進会議で地域との協力体制について相談していると共に車椅子に乗った入居者を職員2人で階段から避難する方法を学んだ。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に入居者のプライバシーに配慮し、介助が必要な場面での声掛けや他入居者の視線などに気を配り、対応するよう心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の行動や表情などを見逃さずに、本人の状態に合わせた声かけや対応を工夫し、日常生活の様々な場面で自己選択、自己決定ができるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者ひとりひとりの生活スタイルやペースをその時の心身の状態に合わせて、本人に確認しながら過ごせるようにしている。食事や入浴もその時の本人の気分に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を依頼。希望者が利用し、リフレッシュしている。化粧や髭剃りといったみだしなみの習慣を継続できるよう、必要物品の準備や支援を行っている。その日の気分に応じて職員によるヘアアレンジを楽しんでいる入居者もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注の厨房職員が作っているが、盛り付けや配膳等、できることを一緒に行っている。誕生会や行事食に力を入れ、見た目でも楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量をチェックし、個々の適量を把握、必要に応じておやつ等で調整をしている。また、朝食はパンといったこだわりにもできる限り対応している。食事量が低下している方は、ご家族と相談し、別メニューを追加する等、おひとりおひとりの状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔内の状態に合わせた用具を使用して口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を保持し残渣物を残さないよう支援している。数名の方は訪問歯科を導入し定期的に口腔内の掃除や衛生保持の指導を受けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個々の排泄パターンの把握も行っているが、入居者の行動や表情、しぐさを職員が察し随時誘導を行っている。また、自尊心を傷つけないよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の体質等に合わせ、牛乳や乳製品、果物等の食品を提供したり、しっかり水分摂取を促し、便秘防止に努めている。また排泄パターンによって、トイレに長めに座る時間を作ったり、軽い運動や散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴についての個々の希望・意向や、その日の体調に合わせて支援している。1対1でゆっくりとコミュニケーションがとれる貴重な時間を大切に、入居者の楽しみの1つとなるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活スタイルや習慣、体調などに応じて休息がとれるように支援している。夜間眠れない時などは、眠くなるまで職員と一緒に過ごすなど、安心して安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員ひとりひとりが個々の内服薬を把握し、副作用等についても確認を行っている。服薬前には職員間でチェックをし、服薬ミスのないよう注意している。日々の変化は都度、記録に残し、受診時に主治医へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や、日々のレクリエーションを企画し、楽しんでもらえるよう努めている。得意なことを活かした活動や、目標を設定した機能訓練など張り合いとなるような個別支援も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内やお隣の庭の散策、外気浴など天候に合わせて外にでる機会を設けている。散歩が毎日の日課となっている入居者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にしまい忘れ等での紛失リスクがあることを説明し、了承頂いた上で現金を所持している入居者がいる。馴染みのパン屋で好きなパンを購入する時などに支払いをして頂き、ご家族にはその旨、ご連絡をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	海外在住の家族等との定期的なオンライン面会や希望時の電話の取次ぎを行っている。携帯電話を持っている入居者の家族や友人から携帯にかけても出ないと連絡を頂き、ご本人に掛け直しを促している。また、手紙や年賀状のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに入居者と職員が協働で装飾制作を行い、リビングや廊下等に飾りつけ、明るく季節感も感じられるよう心掛けている。また、音や光、室温調整など不快感のないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で過ごせるように席の配置等に配慮するようにしている。体調等に配慮し、1人でゆっくりと過ごしたい方については居室で寛いで頂いたり、リビングソファで他者と寛げる居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしていた物や、日常的に使っている物を持ち込めるようにしている。また、写真を飾るなど家族や本人の意向を伺いながら居心地の良い環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっている。見当識障害の方も自分の居室やトイレを認識できるようネームプレート等を設置している。安全に移動できるよう廊下・トイレ・浴室には手すりが設置されている。		